

平成28年度「学校評価」の結果に基づく改善点 並びに平成29年度具体的対応策について

重点目標	自己評価		学校関係者評価委員の意見・助言	改善点	平成29年度 具体的対応策等
具体的方策 (各3項目)	達成度	現況や課題等			
1 充実した学習活動の展開	B	(1) 学校の基盤となる「学びの定着」に向けて、今後もきめ細やかな指導を心がけたい。 (2) 各実習施設と学校の連携を充分に行い、充実感と達成感のある実習を目指していく。 (3) 理事等の評価が低い。教職員研修の内容を検討し、外部への発信や教育活動への還元を図っていく。 <全体> 概ね良であった。今後も学生を取り巻く教育環境を整え、他と連携を密にしながら学習活動を支援していく必要がある。	(1) 全般として、授業や各種実習について、学生が大切に思い努力している様子が分かり、また保護者も理解を示している状況は良い。 (2) 実習等の学習充実に向け、実習先との連携をより緊密にする。学生の成長を促すことが何より大切である。 (3) 実習施設側として学生や学校の対応に感謝しているが、そのまま調査結果に反映している。 (4) 教育課程や教育方針等について、講師と共通理解を図る努力が必要だ。 (5) 全体として、多角的な分析は大変有効だが、データや評価の信頼性と客観性を高めるためさらに工夫が必要だ。	(1) 面談等による個に応じた学習指導の推進 (2) 各講師との情報交換手段の検討 (3) 臨地・臨床実習ガイドラインの再点検 (4) 関係諸学校との連携強化 (5) 教員研修のシステム化	<1> 個人の状態にあった適切な指導を実施し、最終目標である国家試験の合格をめざす。 <2> 教務が臨床実習施設に出向き、学生の様子や施設内の見学、臨床実習施設長およびスタッフの方々との情報交換を行い、今後の臨床実習に活かす。 <2> 講師打合せ会での情報交換や、講師来校時における意見交換等で、講師と学校側との共通理解を深める。 <3> 臨地・臨床実習ガイドラインの再点検を行い、新カリキュラムに見合った目標設定等の見直しを行う。 <4> 異なる専門職をめざす学生同士が交流し、学校間の連携強化に繋げる。 <5> 外部団体主催の研修会への参加や内部の教員研修の充実を図る。
(1) 授業の充実と知識技能の定着に向けた指導の徹底	B				
(2) 臨地実習と臨床実習の充実に向けた事業運営の組織的展開	A				
(3) 学習評価法の工夫と指導力向上に向けた教職員研修の推進	B				
2 学校の将来構想に係る検討の推進	B	(1) 学生の評価が低い。本校教育の目標や指針について伝達する機会を増やす必要がある。 (2) 「職業実践専門課程」の意義を確認しながら、各段階の準備を進める。 (3) 教育課程検討委員会の協議を充実させ、社会的要請を踏まえたものにしていく。 <全体> 概ね良の評価となった。基礎基本を軸にしながら、時代の趨勢を敏感に捉えた教育に努め、専門学校としての基盤強化を図ることが大切である。	(1) 学校の将来構想やビジョン策定について学生の理解が不足気味だが、今後伝達機会を増やすことで改善できる。 (2) 実際に歯科衛生士業務を開始し年数が経過してはじめて理解が進むことが考えられ、長い目で見る必要もある。 (3) 現場での様々な業務を経験してはじめて職業理解が進むものである。	(1) 教育運営方針や歯科衛生士教育の動向の理解にむけた広報機会の拡充 (2) 「職業実践専門課程」申請に向けた「学校評価」事業の推進 (3) 平成30年度施行(予定)新教育課程の内容理解に向けた広報の充実	<1> 学生・保護者に対して、平成29年度「教育重点目標並びに具体的方策」資料を配布し広報する。また、シラバスに示した歯科衛生士教育の考え方も周知を図る。臨床実習時の体験学習をさらに深化させ、実感に基づいた理解獲得を推進する。 <2> 学校関係者評価委員会の協議を基にし、県所管課の指導を得ながら、申請に向けて本格的な準備に入る。 <3> 認可後の年度後半期、「教育課程編成委員会」を設立し、運用方法等の検討を行い、関係諸会議等で広報し周知を図る。
(1) 社会的要請を捉えた学校像並びに歯科衛生士像の研究	B				
(2) 「職業実践専門課程」認可申請に向けた準備の推進	B				
(3) 教育課程の点検と適正化に向けた検討	B				

3 就職・国家試験対策等進路指導の充実	A	(1) 学生それぞれの自己実現のため、指導者は一丸となって取り組む必要がある。 (2) 極めて高い評価となった。今後も指導体制を整え、継続して全員合格を目指したい。 (3) 公平公正に紹介事業を遂行しつつ、個に応じた適切な助言や支援を継続して行っていく。	(1) 国家試験対策は本校教育の第1の柱である。学生の意識も高く、試験結果もよい。学年によって状況も異なると思われるが、学生の声を真摯に受け止めていくことが大切である。 (2) 国家試験は結果がはっきり見える。キャリア教育の観点から言えば、学年進行での意識の推移を注目していく必要がある。 (3) 全員合格をめざし一丸となって向かっていることを高く評価したい。学校として、今後も指導を継続して欲しい。	(1) 国家試験対策の早期開始を含めた学習日程の再検討 (2) 無料職業紹介事業の対応マニュアルの整備	<1>昨年度より早期に、国家試験対策を開始し、メール配信による自宅学習と登校日の確認試験をシステム化し、強化を図る。 <2>無料職業紹介事業に関する人的配置や具体的対応方法を再度見直し、適切な運営マニュアルの作成を行う。
(1) 自己実現に向けた個に応じた丁寧な指導の継続的展開	B	(2) 極めて高い評価となった。今後も指導体制を整え、継続して全員合格を目指したい。 (3) 公平公正に紹介事業を遂行しつつ、個に応じた適切な助言や支援を継続して行っていく。	(2) 国家試験は結果がはっきり見える。キャリア教育の観点から言えば、学年進行での意識の推移を注目していく必要がある。 (3) 全員合格をめざし一丸となって向かっていることを高く評価したい。学校として、今後も指導を継続して欲しい。	(2) 無料職業紹介事業の対応マニュアルの整備	<2>無料職業紹介事業に関する人的配置や具体的対応方法を再度見直し、適切な運営マニュアルの作成を行う。
(2) 歯科衛生士国家資格の全員取得に向けた指導の徹底	A	<鉢> 大変よい評価となった。今後も希望達成に向けた支援の充実と強化を図っていきたい。また、専門職の自覚を持たせ、努力し続ける職業人を育成する。	(3) 全員合格をめざし一丸となって向かっていることを高く評価したい。学校として、今後も指導を継続して欲しい。		
(3) 無料職業紹介事業並びに再就職支援事業の適切な運営	B	<鉢> 大変よい評価となった。今後も希望達成に向けた支援の充実と強化を図っていきたい。また、専門職の自覚を持たせ、努力し続ける職業人を育成する。	(3) 全員合格をめざし一丸となって向かっていることを高く評価したい。学校として、今後も指導を継続して欲しい。		
4 学校生活の充実と心身の健康管理	B	(1) 諸活動の内容充実を図り、個に応じた丁寧な指導を行い、達成感や成就感を培っていく。 (2) 学生の評価が極めて低い。自治会諸行事の内容や方法を検討する必要がある。 (3) 学校カウンセラーとの連携の仕方について、具体的方策を検討していく。	(1) コミュニケーション力が不足しているといわれるが、専門的知識についてばかりではなく、人間としてのコミュニケーション力を育成して欲しい。 (2) 学校行事や諸活動については、学生の率直な意見を取り入れることが大切である。 (3) 校外実習等により、コミュニケーション力を含めて、人間的な成長や変容が家庭生活でも現れてきているように感じている。	(1) 学生自治会活動の充実にむけた意識調査の実施 (2) 学校カウンセラーとの連携法の点検	<1>昨年度末に自治会役員と話し合い今年度の事業計画を見直した。今年度は学生への意識調査を実施し、自治会活動の充実を図る。 <2>学生の心身の健康状態を把握するために、学校カウンセラーと学校側との意見交換の場を増やす工夫を行い3者の連携を図る。
(1) 校内外の諸活動による人間関係構築力やコミュニケーション力の育成	B	(2) 学生の評価が極めて低い。自治会諸行事の内容や方法を検討する必要がある。 (3) 学校カウンセラーとの連携の仕方について、具体的方策を検討していく。	(2) 学校行事や諸活動については、学生の率直な意見を取り入れることが大切である。 (3) 校外実習等により、コミュニケーション力を含めて、人間的な成長や変容が家庭生活でも現れてきているように感じている。	(2) 学校カウンセラーとの連携法の点検	<2>学生の心身の健康状態を把握するために、学校カウンセラーと学校側との意見交換の場を増やす工夫を行い3者の連携を図る。
(2) 学校行事の充実と学生自治会活動の自律的運営	B	(3) 学校カウンセラーとの連携の仕方について、具体的方策を検討していく。	(3) 校外実習等により、コミュニケーション力を含めて、人間的な成長や変容が家庭生活でも現れてきているように感じている。		
(3) 個別面談や学校カウンセラーとの連携による心身状況の把握	B	<鉢> 学生の評価がかなり低い項目があり、注意が必要である。今後は、改善方法等について学生から詳細に意見を聴取し、様々な観点から検討を加えたい。			

<p>5 学校環境の整備と安全教育の推進</p>	<p>B</p>	<p>(1) 臨床実習時や学校生活全般における緊急事の連絡体制が不十分という強い指摘であり、検討を要する。</p>	<p>(1) 危機管理について、保護者と臨床実習施設長から注意を促されているが、緊急連絡網（システム）の構築が必須である。</p>	<p>(1) 緊急情報連絡システムの構築</p>	<p><1>災害時の緊急連絡メールを参考に検討中である。</p>
<p>(1) 危機管理体制の整備と施設設備の安全管理体制の徹底</p>	<p>B</p>	<p>(2) 医療系の学校として、さらに清掃や美化に努めたい。</p>	<p>(2) 危機管理全般に係る整備・点検の必要がある。</p>	<p>(2) 校外実習中の連絡マニュアル整備</p>	<p><2>現在臨地・臨床実習期間中は、本人より学校の電話（時間外は学校所持の携帯電話）へ報告し、改めて教務より施設へ状況を報告している。</p>
<p>(2) 校内外の清掃の徹底と美化活動の推進</p>	<p>B</p>	<p>(3) 人々の健康を守る職業を目指す者として、自身の自己管理の意識や能力は必須であり、さらに向上させたい。</p>	<p>(3) 東日本大震災の経験から某メールシステムの有効性が高く、現在も緊急連絡用に広く使用している。</p>	<p>(3) 校外美化活動の推進</p>	<p>施設長より緊急性の高い場合の連絡方法については、震災、災害、学生の体調等具体例を挙げて検討する。</p>
<p>(3) 心身の健康や生活の安全に関する自己管理能力の向上</p>	<p>B</p>	<p><鉢> 概ね良であるが、学校安全計画や学校保健計画の内容を点検しながら、環境整備と安全教育を行っていく必要がある。</p>	<p>(4) 校内外の生活において、ネット環境に変化に伴う事件や犯罪に巻き込まれたりしないように研修を積み、自己管理能力の向上に努める必要がある。</p>		<p><3>自治会活動として 年2回夏季、冬季休業前に町内会清掃を実施する。</p>
<p>6 関係諸団体・地域社会との連携の推進</p>	<p>C</p>	<p>(1) 「学校評価」事業の初年度ということで、広報が充分とは言えず、今後の課題である。</p>	<p>(1) 学校評価の初年度ということで、広報が不十分だったと思われ、今後に向け改善して欲しい。説明する機会を増やすことが大切である。</p>	<p>(1) 「学校評価」事業の広報促進</p>	<p><1>各種関係会議における報告や、学生・保護者への文書配布等により広報を行っている。今後は、学校HP（現在工事中）への掲載を行う予定である。</p>
<p>(1) 自己評価や学校関係者評価の効果的実施と支援施設との連携の強化</p>	<p>C</p>	<p>(2) 教職員研修は教育機関としての根幹であり、実施するだけでなく、伝達講習等を通して教育内容の充実に繋げていく。</p>	<p>(2) 創立50周年記念講演会について、有意義なものとなった。</p>	<p>(2) 県歯科衛生士会や県看護協会との連携強化</p>	<p><2>歯科衛生士会とは密接に継続的に連携を図る。また、今年度初めて看護協会の「健康祭り」に共同参画校として参加したが、今後も継続的な連携を図っていく。</p>
<p>(2) 歯科医療関連会議等への参加による教職員研修の充実</p>	<p>C</p>	<p>(3) 大きな周年事業を充実した形で行うことができた。</p>	<p>(3) 地域連携を推進する上で、近隣住民の理解を深める広報の工夫により、学校への関心を高めることが大切である。</p>	<p>(3) 本校同窓会との連携強化</p>	<p><3>昨年度、創立50周年記念として学校や学生に寄贈品・記念品を頂戴した。また3月には、同窓会入会式を初めて開催していただいたが、今後も連携を深めていく。</p>
<p>(3) 創立50周年記念事業の準備運営と同窓会運営への支援</p>	<p>B</p>	<p><鉢> なかなか厳しい評価となったが、今後の改善点は明確であり、適切に推進していきたい。同窓会活動の活性化が図られたことは喜ばしいことである。</p>			

<p>7 健全な財務会計の処理</p>	<p>B</p>	<p>(1) 評価が低く改善を要する。学校として健全な財務運営をするためには学生確保が必須であり、具体的方策の検討を充分に行わなければならない。</p>	<p>(1) 財務会計の健全化には定員確保は重要な要件である。少子化が進む現代において、広報は極めて大切であり、他に見られない特色や独自性の明確化を図らなければならない。</p>	<p>(1) 学生募集に係る広報の工夫</p>	<p><1> 「学校案内」の全面改定を実施し、平成30年度生用「学校紹介リーフレット」(A4を三つ折り)を作成し、高等学校、診療所及び各行事において配布し幅広い広報を図る。FM山形ラジオCM放送の改定、奥羽本線、左沢線、フラワー長井線でポスターの通年広報を図る。山形新聞社で県内全ての高等学校に配布される「進路の新聞」に掲載する。</p>
<p>(1) 学生募集に向けた具体的方策の工夫と定員の確保</p>	<p>C</p>	<p>(2) 設備等については、予算に応じて年次計画を立てる。</p>	<p>(2) 歯科衛生士業務に対する理解の浸透を図る。高校生等に直接語りかける場面を数多く設定することが大切である。</p>	<p>(2) 校内安全点検の定期実施</p>	<p><2> 毎月初めの放課後、校内安全点検の定期実施を行なっている。</p>
<p>(2) 校内施設設備の定期点検と適切な補修等の実施</p>	<p>B</p>	<p>(3) 今後も十分な連携を図り、健全な運営に努める。</p>			
<p>(3) 山形県歯科医師会事務局との連携強化と会計処理の迅速化</p>	<p>A</p>	<p><鉢> 山形県歯科医療界において本校の役割は大きい、教育充実には定員確保が極めて大切である。それが健全な財務運営に繋がっていくことになる。</p>			
<p>8 学校情報の適切な提供と学校運営の公開</p>	<p>B</p>	<p>(1) 山形県歯科医師会立校として最大の広報機会である「形歯会報」の掲載記事が充実したものになった。</p>	<p>(1) 学校HPのブログや「形歯会報」では、学校の活動内容がよくわかる。</p>	<p>(1) スマホ対応HPの構築</p>	<p><1> HPの再構築の中で即時性のあるスマホ対応を検討中で、インスタグラムなども構築していく。</p>
<p>(1) 山形県歯科医師会報「形歯会報」への記載内容の充実</p>	<p>A</p>	<p>(2) 学校ホームページは今後も主要な広報手段であり、内容充実とともに、情報公開の精度を高めていく必要がある。また、携帯端末での利用も喫緊の課題である。</p>	<p>(2) 広報を充実させるために、学生の声をHPに反映させることが有効ではないか。</p>	<p>(2) 「学校評価」事業並びに学校情報等のHP掲載</p>	<p><2> 平成30年4月中旬から6月上旬に「学校評価書」他公開文書を監督庁などに報告するとともに、HPへ掲載して公開し、学校行事や各種事業についての情報を随時掲載する。</p>
<p>(2) 学校ホームページの内容充実と携帯端末による情報提供の体制整備</p>	<p>B</p>		<p>(3) 閲覧対象者を絞り込んだHPの編集が有効である。</p>		
<p>(3) 学校評価に係る適切な情報公開とそれらを基盤とした学校運営の改善(今後の課題)</p>	<p>—</p>	<p><鉢> 開かれた学校運営は学校活性化に必須のことである。多くの指導や助言、連携と協働をもとにして、教育の充実を図る。</p>			

☆ 全体質問	A	(1) 学生と保護者との間に乖離があり、注意が必要である。	(1) 学校評価の内容と方法に、さらに改善が加わることを期待する。	(1) 個に応じた学生への対応促進	< 1 > 面談等を実施し、学習や生活全般について、きめ細やかな対応を行う。
(1) 本校入学や学生生活での満足度	B	(2) 大変肯定的なとらえ方である。仲間意識の強さと他を思いやる心が育まれているものと考えられる。		(2) 学校運営に係る学生・保護者への広報の促進	< 2 > 学校状況について、多くの機会を捉えて報告・連絡をしていく。
(2) 学校生活（含校外）における人間関係の満足度	A	(3) 学生や保護者と学校関係者の間に大きな乖離がある。特に学生については学校側の改善姿勢が実感できるような努力や手立てが必要である。		(3) 学校評価の方法等の再点検	< 3 > 文科省「職業実践専門課程」申請に向けて精度を高めていく。
(3) 学校の運営方法や教職員の改善姿勢に対する評価	B	< 全体 > 良い評価となったが学生は様々な不安や悩みを抱えながら学生生活を送っている。教職員は、それらを察知しながら丁寧な指導を心がける必要がある。			
質問数計	—				